

公開シンポジウムとゼミ生たち

12月12日の「観光まちづくり」の公開シンポジウムでは、本当にゼミ生（現役だけでなく、卒業生の研究員も）にお世話になった。ゼミ生たちの活躍がなければ、シンポジウムはうまく進行できなかつた。申込者の名簿作成から、当日の舞台設営、参加者の誘導や片付けなどと仕事がつづいた。昨年12月に大学で開催したシンポジウムについて、とりわけゼミ卒業生の研究員には感謝するばかりだ。

写真はパネル・ディスカッションの舞台設営準備と「リハーサル」である。基調講演だ



けでなく、下見の時と違ってパネル・ディスカッションでもパワーポイントを使うことになり、舞台設営に戸惑った。

シンポジウム参加者の確保や資料作成に追われ、当日の進行についてあまり配慮していなかった。ゼミ生の「フリー・ディレクター」に急遽依頼したが、さすがプロであり、

彼の活躍なくして、シンポジウムはスムーズに展開できなかつた。もっと早く頼んでいれば、よりうまくいった



と思う。なによりも嬉しかったのは、ゼミの4年生が卒論草稿を早く書き上げ、朝早くから懸命に手伝ってくれたことだ。褒めすぎかもしれないが、卒論の草稿もなかなかの出来ばえである。ゼミ生たちに感謝、感謝。

(2007年12月15日 記)